

～目次～

1. ユーザーマニュアルの目的	3
2. Grizzly の目的	3
3. 安全にご使用頂くために	
基本事項	3
設定や調整についての注意事項	4
取り付けや取り外しについての注意事項	5
使用の準備についての注意事項	5
Grizzly の取扱いについての注意事項	6
Grizzly への乗せ下ろしの際に関する注意事項	6
Grizzly の運転・操作時における注意	7
傾斜面の移動に関する注意事項	7
階段での使用に関する注意事項	7
自家用車やその他車両での運搬に関する注意事項	7
メンテナンスとサービスに関する注意事項	8
4. 製品ステッカー	8
5. パッキングリスト	8
6. 主要構成	9
7. オプション・アクセサリー	10
8. 各部の取扱い方法について	
8.1. 本体フレームの構造	11
8.2. 本体フレームの開き方	11
8.3. 本体フレームの折りたたみ方	11
8.4. トランスポートロック	11
8.5. トランスポートロックの脱着方法	11
8.6. 前輪ホイール	12
8.7. 前輪ホイール着脱機構	12
8.8. 前輪ホイールの取り付け	12
8.9. 前輪ホイールの抜き方	12
8.10. 前輪直進ロック機構	12
8.11. 前輪直進ロックのかけ方	13
8.12. 後輪ホイール	13
8.13. 後輪ホイール脱着機構	13
8.14. 後輪ホイールの脱着方法	13
8.15. 後輪車軸ピン脱着機構	13
8.16. 後輪車軸ピンの脱着方法	13
8.17. 後輪ショックアブソーバー	14
8.18. 介助者用ハンドル	14

8.19. 介助者用ハンドルの高さ調整ボタン	14
8.20. 介助者用ハンドルの高さ調整方法	14
8.21. フットブレーキ	14
8.22. フットブレーキの操作方法	14
8.23. ティッピングバー	15
8.24. シート取付アタッチメント（本体フレーム側）	15
8.25. シート取付アタッチメント（シート部分側）	15
8.26. シート部分を本体フレームに取り付ける	16
8.27. シート部分の外し方	17
8.29. シート奥行き調整	18
8.30. シート幅調整	18
8.31. ティルト角度調整機構「クレードル」について	19
8.32. ティルト角度調整	19
8.33. 背シートの調整機構について	20
8.34. 背シートの高さ調整	20
8.35. リクライニング角度調整機構について	20
8.36. リクライニング角度調整	21
8.37. 5点式シートベルト	21
8.38. 5点式シートベルト調整方法	22
8.39. フットレスト機構について	22
8.40. フットレスト高さ調整	22
8.41. フットレスト角度調整	23
8.42. レッグレスト角度調整機構について	23
8.43. レッグレスト角度調整	23
8.44. 三方向調整式「ヘッドレスト」調整	23
8.45. 三方向調整式「体幹パッド」調整	24
8.46. 三方向調整式「ヒップサポート」調整	24
8.47. 体幹サイドガード	25
8.48. 股関節外転保持ベルト【オプション品】	25
8.49. セーフティグリップ【オプション品】	26
8.50. 日除け（キャノピー）【オプション品】	26
8.51. テーブル【オプション品】	27
8.52. トラベルバッグ【オプション品】	27
8.53. ショッピングバスケット【オプション品】	27
8.54. ポメル	27
8.55. レインカバー【オプション品】	27
8.56. 介助者用防寒グローブ【オプション品】	28
8.57. フットマフ【オプション品】	28
8.58. モスキートネット【オプション品】	28
8.59. テディベア装飾セット【オプション品】	28
9. スペック	29

1. ユーザーマニュアルの目的

- 1.1. このユーザーマニュアルは、安全にご使用頂くための製品説明、組み立て方法、操作方法と調整方法、メンテナンス方法、保証内容と条件など、本製品について正しくご理解頂いた上でご使用頂くためにご準備しております。
- 1.2. このユーザーマニュアルは医師やセラピストだけでなく、本製品をご使用されるユーザー様にも分かり易くご参照頂けるよう内容が記載されています。
- 1.3. このマニュアルはすぐに取り出せる場所に保管してください。
- 1.4. このマニュアルは今後ともご参照頂けるよう、廃棄せず必ず保管してください。

2. Grizzly の目的

- 2.1. Grizzly は脳性麻痺などの神経学的疾患、整形外科的疾患、その他の障害により歩行が困難もしくは不可能であるお子様が乗車するために設計されています。
- 2.2. Grizzly は対麻痺、四肢麻痺、片麻痺または両麻痺をお持ちのお子様が乗車するために設計された福祉機器です。
- 2.3. Grizzly は1人乗り専用です。
- 2.4. Grizzly はお子様それぞれのニーズに合わせて簡単かつ安全に調整することができます。
- 2.5. Grizzly はおおよそ2～12歳の身長80～140cmのお子様を対象に設計されています。耐荷重は45kgです。
- 2.6. 本製品をご選択頂く際には、身体的・心理的状況、使用者の身長・体重、お住まいや周辺の環境、そして使用者の病態などを十分に考慮してください。
- 2.7. Grizzly は脳性麻痺、脊髄損傷の後遺症、頭蓋・脳損傷の後遺症、外傷後脳卒中、脳卒中後遺症など、障害により歩行や移動が困難もしくは不可能であるお子様の移動をサポートします。
- 2.8. Grizzly は義肢装具士やセラピストの指示に従い使用してください。
- 2.9. Grizzly は屋内（アパート、病院等の施設など）、屋外（公園、舗装された道路）、などの4輪のすべてが固い地面に接地し操作に問題がない環境下で使用してください。
- 2.10. Grizzly は介助者によってのみ運転操作がされるように設計されています。
- 2.11. Grizzly は乗車するお子様と介助者（親、介護員、医師、セラピスト）それぞれを「ユーザー」としています。
- 2.12. Grizzly は定期的なお手入れとメンテナンスを行いながらご使用ください。
- 2.13. 使用に関するリスクについては、「3.安全にご使用頂くために」の章で詳しく説明しています。必ずご参照頂き正しく理解した上で Grizzly をご使用ください。

3. 安全にご使用頂くために

【基本事項】

- 3.1. ご使用前にユーザーはこのユーザーマニュアルをよく読み、注意事項を守り使用することが義務付けられています。
- 3.2. ご使用前にこのユーザーマニュアルの安全に関する内容と指示、記載事項をよくご理解頂きこれに従ってご使用ください。
- 3.3.1. ユーザーマニュアルの記載事項に沿った使用方法でない場合、特に製品の可動部分での事故の危険性が増します。

- 3.3.2. ご使用の前に必ず「4. 各部の取り扱い方法について」の章をお読みください。
- 3.4. 怪我や事故の危険性があるため、お子様を乗車させたまま放置しないでください。
- 3.5. この製品にはお子様が飲み込んだ場合に危険となりうる小さな部品が含まれています。
- 3.6. お子様を安全にご乗車頂けるように常に装備されているすべての安全システムをご使用ください。（5点式ハーネス、ヘッドレスト、体幹部サポート、ヒップサポート、バックサポートのサイドエレメント、ベルト、ウェッジクッション、グリップまたはテーブル、フットレストおよびハーネスなど（一部オプション装備品を含む））
- 3.7. フレームが高温・低温になった状態でお子様を乗車させないでください。長時間の直射日光、雪や霜、などによりフレームの表面温度が異常となる可能性があるため十分にご注意ください。火傷や凍傷の危険があります。
- 3.8. 折りたたみの際や広げる際には周囲に十分注意し、フレームやフットレストの隙間などの開口部に手を挟まないように操作を行ってください。
- 3.9.1. 操作・使用中や組立時、または調整中に使用者や介助者の手などをフレームの隙間など開口部に挟まないよう十分注意してください。
- 3.9.2. 組立や調整が完了した後、ボルト・ナット、ノブおよびそのた構成要素を確実に締めて固定してください。
- 3.10. 耐荷重を超えたお子様は使用しないでください。
- 3.11. Grizzly の耐荷重は 45 kg です。
- 3.12. トラベルバッグの耐荷重は 2kg です。
- 3.13. ショッピングバスケットの耐荷重は 3kg です。
- 3.14. テーブルの耐荷重は 3kg です。
- 3.15. 日除け（キャノピー）の後方ポケットはレインカバーやモスキートコートを入れる目的のみに使用してください。
- 3.16. 介助者用ハンドルはバックレストの高さ・角度調整、座奥行の調整、シート角度調節、フットレストの調整に応じて変更してください。使用状況により干渉します。
- 3.17. Grizzly 使用中に本製品が原因による事故が発生した場合はただちに販売店ならびに代理店へご報告ください。
- 3.18. Grizzly のシート部分は生後 6 か月未満のお子様には適していません。
- 3.19. Grizzly の上に立たないでください。足台にしないでください。
- 3.20. Grizzly は決められた使用方法を必ずお守り頂きご使用ください。

【設定や調整についての注意事項】

- 3.21. 組み立てや各部調整、パーツの変更、パーツ取り付け、ティルト角度の変更の際には必ずお子様を Grizzly から降ろしてからおこなってください。お子様や介助者、周囲に危険を及ぼします。
- 3.22. お子様を載せたまま行われた各部調整についてはユーザーマニュアルの内容に沿って行われていたとしても関係なく、お子様や介助者、周囲に危険を及ぼします。
- 3.23. Grizzly はティルト角度・リクライニング角度の相互により大きく倒すことが可能です。角度の調整によっては乗車されるお子様の頭が心臓や骨盤よりも下になるポジションにもなり得ますが窒息等に繋がる危険性があるため絶対におやめください。
- 3.24. Grizzly のシートや装飾セット（オプション品）によるお子様の擦過傷や毛髪の挟み込みなどに十分ご注意ください。

- 3.25. ティルト角度の調整により Grizzly 全体の重心位置を変化させます。特に大きく角度を倒した場合は Grizzly の安定性に影響しますので十分ご注意ください。
- 3.26. リクライニング角度の調整により Grizzly 全体の重心位置を変化させます。特に大きく角度を倒した場合は Grizzly の安定性に影響しますので十分ご注意ください。
- 3.27. リクライニング角度を調整した場合は必ずシートベルトの締め具合を調整してください。
- 3.28. フットブレーキは減速を目的としたブレーキではありません。必ず駐車ブレーキとしてのみご使用ください。
- 3.29. 前輪キャスターは直進ロック機構を使用していない場合、不整地や傾斜地における振動によりホイールの回転が突然停止し本体が転倒する恐れがあります。不整地や傾斜地で使用する場合には必ず前輪キャスターの直進ロック機構を使用した上でゆっくりと操作してください。
- 3.30. Grizzly のすべての調整は、医師やセラピスト、義肢装具士がおこなってください。

【取り付けや取り外しについての注意事項】

- 3.31. 座面部分の取り付けや取り外しの際に周囲に危険が及ばないか安全を確認してから行ってください。
- 3.32. ご使用前に必ず一度組み立ててみて問題がないかを確認してください。この段階で問題が発生した場合は、ただちに販売店もしくは代理店にご連絡ください。
- 3.33. シート部分が本体フレームアタッチメントのロック機構にしっかりと確実に固定されているかを必ず確認してください。適切に固定されていないとシート部分が脱落しお子様が重傷を負う危険があります。
- 3.34. Grizzly の座面部分は Grizzly 専用フレームへのみ取り付け使用が可能です。また、フレームアタッチメントのロック機構に異常がないか頻繁に確認して頂きシート部分の取り付けを行ってください。Grizzly 以外のフレームおよびアタッチメントには絶対に使用しないでください。重大な事故に繋がる危険があります。
- 3.35. バックレスト部分には許容以上の重さを加えることが禁止されています(トラベルバッグの耐荷重は 2kg です)。Grizzly が後方へ転倒し重大な事故に繋がる危険があります。
- 3.36. 特にシート部分の本体フレームアタッチメントへの取り付けや取り外しの際には可動部分への手の挟み込みに十分ご注意ください。
- 3.37. 前輪や後輪の取り付け、取り外しの際は確実に正しく取り付けられているか確認してください。移動中に車輪が外れて重大な事故に繋がる危険があります。
- 3.38. 本体フレームの開き防止ロックがかかっている場合は無理矢理開かないでください。本体フレームの歪みや破損を招く恐れがあります。必ず開き防止ロックを外してから本体フレームを開いてください。
- 3.39. 座面部分を進行方向から対面式へ変更(この逆の場合も同じ)して本体フレームアタッチメントへ取り付けた場合は Grizzly 全体の重心位置を変化させます。Grizzly の安定性に影響しますので十分ご注意ください。
- 3.40. Grizzly に取り付けられるすべての追加部品は安定性に影響を及ぼす恐れがありますので十分にご注意ください。

【使用の準備についての注意事項】

- 3.42. Grizzly をご使用される前に、本体フレームと座面部分が適切に取り付けられており、すべての機構(ノブネジ、クリップ、ファスナー、ボルト等)が適切に取り付けられているかを確認

認してください。特に、座面部分と本体フレームアタッチメントのロック機構、前・後輪の取り付けに問題がないか確認してください。

3.43. お子様にシートベルトが確実に留められているかを確認してください。しっかりと固定されるよう必要に応じてシートベルトの長さ調整を行ってください。

3.44. 本体フレームの折りたたみ機構は本製品の非常に重要な構成要素です。ご使用前に開いた際の折りたたみ機構ロック部分の固定に不具合がないことを確認してください。不具合がある場合重大な事故に繋がる危険がありますので絶対に使用しないでください。その場合はただちに販売店もしくは代理店に連絡してください。

3.45. お子様の安全のために本体フレームの折りたたみ機構の操作方法を正しく理解しご使用ください。

3.46. ご使用前に Grizzly のシートカバーや本体が乾燥した状態で使用してください。

3.47. 故障した際にどうしても使用を希望する場合は販売店もしくは代理店へ必ずご相談ください。継続して Grizzly を使用する場合は以下の確認と操作を必ず行って安全性を確認してください。

3.47.1. Grizzly の目に見える箇所の損傷やその他の欠陥を点検してください。

3.47.2. Grizzly の本体フレームが正しく折りたたまれていること、折りたたみ機構が適切に閉じられている（ロックされている）ことを確認してください。

3.47.3. Grizzly のシートフレームをチェックしてください。各パーツが正しく取り付けられているか確認してください。

3.47.4. 4つのホイールがすべて正しく取り付けられており正常に回転することを確認してください。

3.47.5. 4つの車輪がしっかりと地面に接地しているか確認してください。

3.47.6. フットブレーキが正しく作動しているか確認してください。

3.47.7. 再度すべての確認と操作を正しく行ってください。ティルト・リクライニング角度の調整、フットレスト角度の調整、シートベルト長さ調整、それぞれを確認してください。

3.47.8. すべての部品が適切に取り付けられており問題がないことを確認してください。

3.47.9. Grizzly のシートや本体が乾燥していることを確認してください。

3.47.10. シートベルトが的確にお子様を保護していることを確認してください。

3.47.11. シートベルト、ヘッドレスト、体幹パッド、ヒップサポート、ポメル、フットレスト、その他オプション品、すべてが安全に使用可能な状態であることを確認してください。

3.48. Grizzly の各部機構や本体フレーム、アタッチメント、シートユニットが破損している場合は使用しないでください。このような状態の場合、販売店もしくは代理店に必ずご相談ください。

【Grizzly の取扱いについての注意事項】

3.49. お子様が乗車した状態で Grizzly を持ち上げないでください。

3.50. Grizzly の座シート部分と背シート部分を別々にしないでください。

3.51. フットレストを持って Grizzly を持ち上げないでください。

【Grizzly への乗せ下ろしの際に関する注意事項】

3.52. フットレストの上に立たないでください。本体に損傷を与える危険があります。

- 3.53. お子様を Grizzly に乗せ下ろしする際、お子様や介助者が怪我をしたり本体へ損傷を与えたりしないようにするため、フットレストに立たないようにしてください。
- 3.54. お子様が Grizzly に乗っているときには必要に応じてフットブレーキをかけてください。
- 3.55. お子様を乗せ下ろしする際には必ずフットブレーキをかけてください。

【Grizzly の運転・操作時における注意事項】

- 3.56. 異常を感じたら無理矢理操作しないようにしてください。
- 3.57. Grizzly はランニングやスケートなどには適していません。
- 3.58. Grizzly の運動目的での使用は禁止します。
- 3.59. お子様の手足が車輪や調整可能なパーツの間に入り込んでいないか確認してください。
- 3.60. ドアや狭い場所を移動する際にはお子様の手足が当たらないか、挟んでしまわないか確認してください。
- 3.61. 公道を Grizzly で移動する場合は道路標識に従ってください。

【傾斜面の移動に関する注意事項】

- 3.62. 急激な傾斜地においてお子様を Grizzly に乗せたまま移動しないでください。
- 3.63. 公道で使用する際には道路標識の傾斜角度を確認してください。
- 3.64. 傾斜地で使用する際には Grizzly の許容傾斜角度が適切であるか確認してください。また、車輪が傾斜面に確実に安定して接地しているか確認してください。前輪直進ロック機構を使用することをお勧めします。
- 3.65. 傾斜地では角度に応じて Grizzly の重心が大きく変化しているため十分ご注意ください。場合によっては転倒の危険もあります。

【階段での使用に関する注意事項】

- 3.66. 階段での使用はお子様を乗せていない状態であっても禁止しています。使用者や介助者への怪我や本体の損傷の危険があります。

【自家用車やその他車両での運搬に関する注意事項】

- 3.67. 車載時に Grizzly にお子様を乗せた状態で運搬することは禁止しています。また、他の交通機関（乗り物、電車、バス、飛行機、船舶など）でも同様に禁止しています。
- 3.68. Grizzly のチャイルドシート（カーシート）としての使用は禁止しています。
- 3.69. Grizzly を車、バス、電車などの輸送手段で運搬するときは、適切に固定等がされて置かれていることを確認してください。怪我や重大な事故に繋がる危険があります。
- 3.70. Grizzly を車、バス、電車などの方法で輸送する場合、絶対にお子様に乗車していない状態で運搬してください。また、周囲の人に危害が加わらないよう、また本体が損傷しないよう十分に本体フレームやシート部分が保護されているようにしてください。
- 3.71. 販売店、代理店、メーカーは運搬中の不適切な製品保護に起因するいかなる損害、損傷、損耗についても責任を負いかねます。
- 3.72. Grizzly を車、バス、電車等の輸送手段で輸送する場合。使用者や乗客と Grizzly 双方を保護するために安全ベルトを使用するようにしてください。
- 3.73. Grizzly を運搬する際や保管する際には車載用フックの使用を推奨します。

【メンテナンスとサービスに関する注意事項】

- 3.74. Grizzly の破損に対する責任は、本ユーザーマニュアル内の記載事項すべてを厳格に守っている場合にのみメーカーにあります。記載事項を厳守していない使用方法による破損、怪我、事故などについてはメーカー、代理店、販売店は一切責任を負いません。
- 3.75. 純正部品と純正付属品、純正アクセサリを使用していない場合、メーカー、代理店、販売店は一切責任を負いません。
- 3.76. 修理や部品交換の際にはメーカーの提供するスペアパーツのみを使用してください。
- 3.77. メーカーまたは認可サービス以外の者が行った修理は保証の無効対象となります。メーカーは認可された保守要員以外の者またはメーカー以外の人による修理の結果として生じる可能性のある人身傷害または損傷については一切責任を負いません。
- 3.78. 定期的に清掃しメンテナンスをおこなってください。クリーニングには研磨クリーナーを使用しないでください。
- 3.79. 代理店から購入した場合のみ Grizzly の正しい機能・性能が保証されます。
- 3.80. メーカーおよび代理店はユーザーのオプション品の適切な選択について一切責任を負いません。

4. 製品ステッカー

4.1. 製品ステッカーには製品の基本情報（メーカー名、製品名、シリアルナンバー、耐荷重、製造年月日、CE マーク、メーカーのアドレスとホームページ URL が記載されています。

4.2. 製品ステッカーは、製品の本体フレームに貼ってありますのでご確認ください。

Fig.4.1.



5. パッキングリスト

5.1. 製品本体：製品はあらかじめが組み立てられた状態（一部を除く）で梱包してあります。梱包内容をご確認ください。

5.1.1. 本体フレーム

- 本体フレーム
- トランスポートロック
- 前輪
- 前輪クイックリリース機構
- 前輪直進ロック機構
- 後輪
- 後輪ホイール着脱機構
- 後輪ショックアブソーバー
- 介助ハンドル
- 介助ハンドル角度調整機構
- フットブレーキ
- ティッピングバー
- 折りたたみ時開き防止フック
- ティルト角度調整機構

5.1.2. シート部分

- シート部分本体
- シート固定機構
- 背シート
- リクライニング調整機構
- 5点式シートベルト
- フットレスト
- フットレスト角度調整機構

5.1.3. 保証書

5.1.4. オプション品（ご注文を頂いた場合）

5.2. ご使用前に梱包内容をご確認ください。

5.3. 梱包内容に問題がある場合は販売店もしくは代理店にお問い合わせください。

5.4. Grizzly の多機能な構成要素を有効にご利用頂く為に個々に調整することが可能です。これを行うには使用前にマニュアル全体をよくお読みください。義肢装具士やセラピストによる調整を行ってください。

5.5. フットレスト高の調整以外において、組み立てや調整には工具を必要としません。

6. 主要構成

Grizzly は本体フレーム部分とシート部分の 2 つで構成されています。

また、Grizzly には多数のオプション部品やアクセサリをご準備しています。

6.1. 本体フレーム：

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 6.1.1. 折りたたみ機構の操作部分 | (Fig.6.1. no. 14) |
| 6.1.2. 車載用フック | (Fig.6.1.) |
| 6.1.3. 前輪ホイール | (Fig.6.1. no. 7) |
| 6.1.4. 前輪脱着機構部分 | (Fig.6.1. no. 5) |
| 6.1.5. 前輪直進ロック機構 | (Fig.6.1. no. 4) |
| 6.1.6. 後輪ホイール | (Fig.6.1. no. 9) |
| 6.1.7. 後輪ホイール脱着機構 | (Fig.6.1. no. 8) |
| 6.1.8. 後輪車軸ピン脱着機構 | (Fig.6.1. no. 13) |
| 6.1.9. 後輪ショックアブソーバー | (Fig.6.1. no. 12) |
| 6.1.10. 介助者用ハンドル | (Fig.6.1. no. 1) |
| 6.1.11. 介助者用ハンドルの角度調整機構 | (Fig.6.1. no. 2) |
| 6.1.12. フットブレーキ | (Fig.6.1. no. 11) |
| 6.1.13. ティッピングバー | (Fig.6.1. no. 10) |
| 6.1.14. シート部分脱着機構部分 | (Fig.6.1. no. 3) |
| 6.1.15. ティルト角度調整機構 | (Fig.6.1. no. 6) |

Fig.6.1.

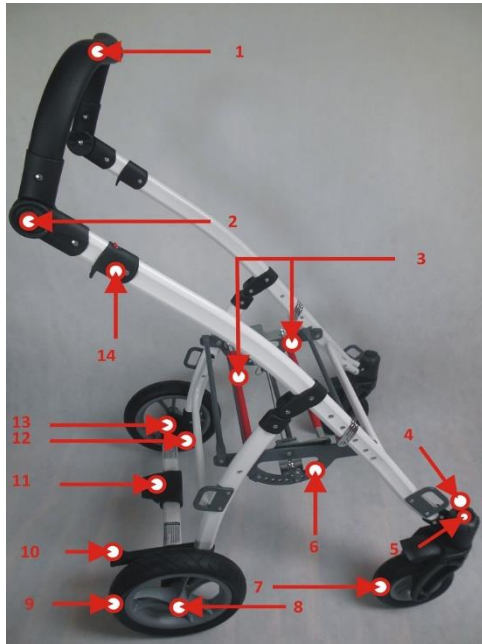


Fig.6.2.



6.2. シート部分：

6.2.1. シートベース

(Fig.6.2. no.3)

6.2.2. 本体フレームへの脱着機構部分

(Fig.6.2. no.6)

6.2.3. バックレストベース

(Fig.6.2. no.1)

6.2.4. リクライニング角度調整機構

(Fig.6.2. no.7)

6.2.5. 5点式シートベルト

(Fig.6.2. no.2)

6.2.6. フットレスト

(Fig.6.2. no.4)

6.2.7. レッグレスト角度調整機構

(Fig.6.2. no.5)

7.3. オプション・アクセサリ

7.3.1. グリップ

7.3.2. キャノピー

7.3.3. トレイ（テーブル）

7.3.4. トラベルバック

7.3.5. ショッピングバスケット

7.3.6. 大腿外転ベルト

7.3.7. レインカバー

7.3.8. 介助者用防寒グローブ

7.3.9. 防寒マフ

7.3.10. モスキートネット

7.3.11. テディベア装飾セット

8. 各部の取扱い方法について

8.1. 本体フレームの構造

本体フレーム折りたたみ機構はフレームの内側にあり、フレームの左右それぞれ 3 箇所にあります。上側から順に以下の通りとなります。

- a) 折りたたみロック：フレームの右側部分に赤色のロックボタンがあります。折りたたみのロック／解除をするための装置です。
- b) 回転軸：上部フレームと下部フレームを固定する要素です。
- c) ツイスター：上部フレームを折りたたんで寸法を小さくする要素です。

Fig.8.1.



8.2. 本体フレームの開き方

本体フレームを地面に置き介助者用ハンドルを一番上の状態にしてください。介助ハンドルの高さ（角度）調整は根元のプッシュボタンを左右押しながら行ってください(Fig. 8.2.)。トランスポートロックを取り外します（8.5 トランスポートロックの脱着方法を参照）。

介助者ハンドルを握って上側へ持ち上げて本体フレームを開いてください。しっかり開くと「カチッ」というクリック音が確認できます。

Fig.8.2.



8.3. 本体フレームの折りたたみ方

- ①右側の折りたたみロックの赤色ロックボタン（8.1 本体フレームの折りたたみ構造を参照）を押しながら、同時に折りたたみロックを介助者用ハンドル側に向かって引き上げます（Fig. 8.3）。
- ②前輪に向かって本体フレームを折りたたんでください。
- ③トランスポートロックをかけてください。

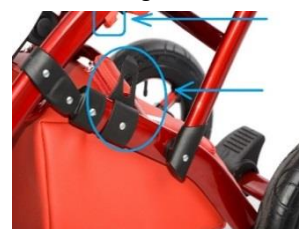
Fig.8.3.



8.4. トランスポートロック

本体フレームにはトランスポートロックが装備されています。このロックは運搬中や保管中に本体フレームが勝手に開いてしまわないようにするための装置です。トランスポートロックは、アイレット（メス部分）とピン（オス部分）の 2 つで構成されています。

Fig.8.4.



8.5. トランスポートロックの脱着方法

折りたたんだはずの本体フレームが誤って開いてしまわないようにするためにトランスポートロックを使用してください。本体フレームを折りたたんだらピン（オス部分）をアイレット（メス部分）に引っ掛けてください。

Fig.8.5.

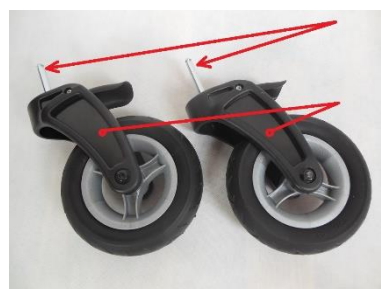


本体フレームを開く際にはトランスポートロックを解除してから行ってください。

8.6. 前輪ホイール

前輪タイヤはチューブレスでありながら空気入りタイヤに非常に近いサスペンション感覚を持つ特別なゲルで製造された最高峰の素材を採用しています。前輪ホイールはフォークに取り付けられています。上端のピンは本体フレームへ簡単に着脱ができる構造になっています。

Fig. 8.6.



8.7. 前輪ホイール着脱機構

前輪ホイールのアタッチメントは本体フレーム前端にあります。前輪ホイールを取り外す際にはアタッチメント上部のボタンを押しながら行ってください。

Fig.8.7.



8.8. 前輪ホイールの取り付け

ホイールの回転軸（ピン）を本体フレームの前輪ホイールアタッチメントに差し込んでください。しっかり取り付けられると「カチッ」というクリック音が確認できます。

Fig.8.8.



8.9. 前輪ホイールの抜き方

前輪ホイールを取り外す場合、アタッチメント上部にあるボタンを押しながら行ってください。ボタンを押しながら前輪ホイールを下側へ抜きます。(Fig.8.9.)

Fig.8.9.



8.10. 前輪直進ロック機構

前輪直進ロック機構(Fig. 8.10)を使用するとお子様、介助者双方にとっての快適性が得られます。

傾斜面や不整地での移動や、段差を越えるときは前輪直進ロックの使用を推奨します。

ショッピングセンターや学校など、完全にフラットな表面での移動の

Fig.8.10.



場合は前輪直進ロックを解除して頂いて結構です。

8.11. 前輪直進ロックのかけ方

前輪直進ロックをかける場合、前輪ホイールアタッチメントの上部部分(Fig.8.11.)を反時計回り（左回り）に回転させてください。
解除する場合は時計回り（右回り）に回転させてください。

Fig.8.11.



8.12. 後輪ホイール

後輪タイヤはチューブレスでありながら空気入りタイヤに非常に近いサスペンション感覚を持つ特別なゲルで製造された最高峰の素材を採用しています。ホイールと車軸ピンの両方が着脱可能であるためコンパクトになり運搬や保管がし易くなります。

Fig.8.12.



8.13. 後輪ホイール脱着機構

後輪ホイールの脱着が行えます。クイックリリースクランプをホイール中心に向かって押してください(Fig. 8.13)。後輪ホイールの脱着が行えます。

Fig.8.13.



8.14. 後輪ホイールの脱着方法

後輪ホイールを車軸ピンに取り付けるときは、クイックリリースクランプをホイール中心に向かって押しながら行います。先端を差し込んだらクランプを押すのを止め、「カチッ」というクリック音が確認できるまでホイールをピンに押し込んでください。後輪ホイールを取り外すときは、クイックリリースクランプをホイール中心に向かって押しながら車軸ピンから引き抜いてください。

Fig.8.14.



8.15. 後輪車軸ピン脱着機構

後輪車軸ピン脱着機構は本体フレームの後端にあります。後輪車軸ピンごと迅速な脱着が可能です。ピンごと取り外せるため本体フレームを折りたたんだ際にコンパクトになります。クイックリリースボタン(Fig. 8.15)を下に押して操作します。

Fig.8.15.



8.16. 後輪車軸ピンの脱着方法

8.16.1. 後輪車軸ピンの取り付け方

- ①後輪ホイールが取り付けられた状態の車軸ピンを車軸穴に挿し込みます。
- ②途中で引っかかり挿し込めない状態になりますのでクイックリリースボタンを押してスライドさせます。
- ③クイックリリースボタンを離して「カチッ」というクリック音が確認できるまでスライドさせて挿し込みます(Fig.8.16.)。
- ④念のため後輪ホイールを引っ張って抜き出せないか確認してください。

Fig.8.16.



8.16.2. 後輪車軸ピンの取り外し方

後輪車軸ピンを本体フレームから取り外す場合はクイックリリースボタンを下に押しながら後輪ホイールをスライドさせて取り外してください。

8.17. 後輪ショックアブソーバー

本体フレームの後端にはスプリング式の後輪ショックアブソーバーが内蔵されています(Fig. 8.17)。
常時自動で機能しています。

Fig.8.17.



8.18. 介助者用ハンドル

高さ（角度）調整が可能な介助者用ハンドルです。誰が操作しても安全で押しやすい高さに設定ができます。

Fig.8.18.



8.19. 介助者用ハンドルの高さ調整ボタン

ハンドルの高さ（角度）調整ボタンは本体フレームの外側に 2 つあります。

介助者用ハンドルはバックレストの高さ・角度調整、座奥行の調整、シート角度調節、フットレストの調整に応じて変更してください。
使用状況により干渉します。

Fig.8.19.



8.20. 介助者用ハンドルの高さ調整方法

ハンドルの高さ（角度）を変更する場合は、2つの調整ボタンを同時に押しながら変更します(Fig.8.20.)。段階調整式の機構となっています。
お好みの高さ（角度）に調整し「カチッ」というクリック音とともにハンドルが固定されていることを確認してください。

Fig.8.20.



8.21. フットブレーキ

2つの後輪を直接ロックするピン固定式フットブレーキは本体後方フレームの中央にあります。

Fig.8.21.



8.22. フットブレーキの操作方法

フットブレーキをかけるためにはブレーキペダルを「カチッ」というクリック音が確認できるまで足で踏み込んでください(Fig.8.22)。
フットブレーキを解除するためにはブレーキペダルをつま先で押し上げてください。

Fig.8.22.



8.23. ティッピングバー

ティッピングバーは本体後方フレームの右側にあります(Fig. 8.23)。ティッピングバーは前輪を高く上げて小さな段差や不整地を越えるために使用してください。

ティッピングバーを足で下に踏み込みながら、同時に介助者用ハンドルを下に押してください。前輪を高く浮かせることができます。ただし後方への転倒には十分にご注意ください。

Fig.8.23.



8.24. シート取付アタッチメント (本体フレーム側)

本体フレームの中央には2つの赤色のフレームパイプがあります(Fig. 8.24)。この2つのフレームはシート部分を取り付ける際のアタッチメントとして非常に重要な要素です。シート部分を取り付ける際に間違いがないようにグレーのフレームパイプと区別してあります。十分に確認をしてから取り付けを行ってください。

Fig.8.24

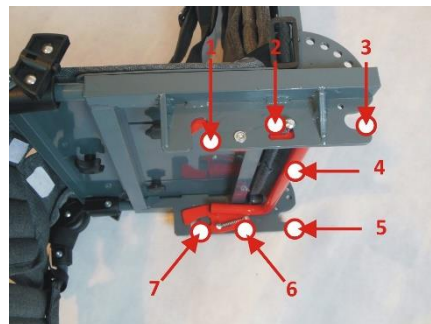


8.25. シート取付アタッチメント (シート部分側)

シート部分側のアタッチメント機構は座面の底側にあります。

- a) ハンドル (Fig.8.25, no. 4)
- b) ロックストッパー (Fig.8.25, no. 2 & 6)
- c) 前方アタッチメント (Fig.8.25, no. 1 & 7)
- d) 後方アタッチメント (Fig.8.25, no. 3 & 5)

Fig.8.25.



アタッチメント機構は本体フレームへの取り付け、使用中の安全な固定、取り外し、それぞれで機能する重要な構成要素です。

8.25.1 アタッチメントロックシステムの開き方

Fig.8.25.1.-A

ハンドルを後方に引っ張るとアタッチメントのロックシステムが開きます(Fig.8.25.1.-A)。

更にハンドルを上側に引き上げるとロックストッパーがかかりロックシステムを開いたままの状態にできます。

(Fig.8.25.1.-B)



Fig.8.25.1.-B

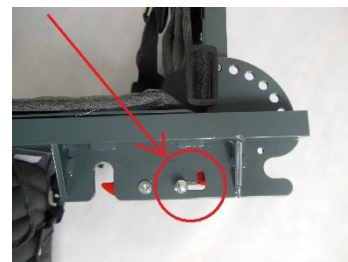


8.25.2. アタッチメントのロック方法

アタッチメントのロックはシート部分が本体フレームに正しく取り付けられていないとかかりません(「8.26 シート部分を本体フレームに取り付ける」を参照)。

ロックシステムが Fig.8.25.2 の通りになっていればロックがかかった状態です。

Fig.8.25.2.



8.26. シート部分を本体フレームに取り付ける

シート部分は進行方向と対面式どちらでも取り付けができます。シート部分を本体フレームに取り付けるためには以下の順序で行ってください。

- 必ずフットブレーキをかけて本体フレームが動かないようにしてください。(Fig.8.26.-A)
- ティルト角度を 0° の状態にしてください。(Fig.8.26.-B 「8.32.ティルト角度の調整」を参照)
- アタッチメントロックシステムを開いた状態にしてください。(Fig. 8.26.-C 「8.25.1. アタッチメントロックシステムの開き方」を参照)
- 後方アタッチメントの溝を赤いテープが巻いてあるフレームパイプに引っ掛けてください。(Fig.8.26.-D)
- 前方アタッチメントをもう一方の赤いテープが巻いてあるフレームパイプに引っ掛けてください。(Fig.8.26.-E)
- 前方アタッチメント部分を上から押して本体フレームに取り付けてください。「カチッ」というクリック音が確認できます。(Fig.8.26.-F).

Fig.8.26.-A - CORRECT



Fig.8.26.-A' - WARNING!



Fig.8.26.-B - CORRECT



Fig.8.26.-B' - WARNING!



Fig.8.26.-C - CORRECT



Fig.8.26.-C' - WARNING!



Fig.8.26.-D - CORRECT

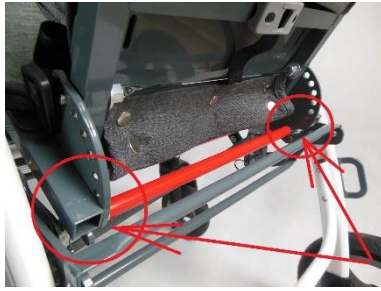


Fig.8.26.-D' - WARNING!



Fig.8.26.-E - CORRECT

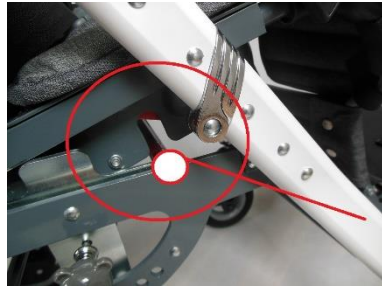


Fig.8.26.-E' - WARNING!

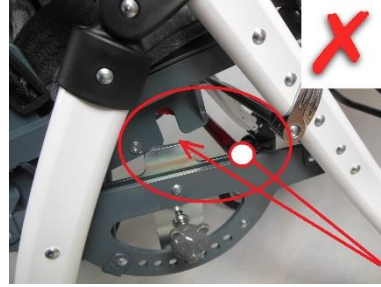
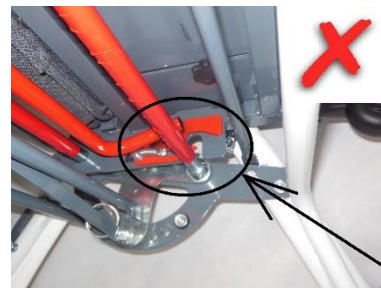


Fig.8.26.-F - CORRECT



Fig.8.26.-F' - WARNING!



8.27. シート部分の外し方

シート部分を本体フレームから外す際は以下の順序で行ってください。

- フットブレーキをかけて本体フレームが動かないようにしてください。
- ティルト角度を 0° の状態にしてください。(Fig.8.27.-B 「8.32.ティルト角度の調整」を参照)
- アタッチメントロックシステムを開いてください。(Fig.8.27.-C)
- 更にハンドルを上側に引き上げロックストッパーに引っ掛けてロックシステムが開いたままの状態にしてください。(Fig.8.27.-D)
- シートの前方を持ち上げて前方アタッチメントを外してください。(Fig.8.27.-E)
- 後方アタッチメントから外すようにシート部分を前側に引き抜いてください (Fig.8.27.-F)

Fig.8.27.-B



Fig.8.27.-C



Fig.8.27.-D



Fig.8.27.-E



Fig.8.27.-F



8.29. シート奥行き調整

①シートの底側にある 2 つのノブネジを緩めてください(Fig.8.29.-A)。「ヒップサポート」をお使いの場合はヒップサポートの根元のノブネジも緩めてください。

②ノブネジの緩め過ぎに注意してください(Fig.8.29.-B)。

③調整が終わったらノブネジしっかりと締めてください。(Fig.8.29.-C)

シート奥行き調整範囲：25cm～37cm

Fig.8.29.-A



Fig.8.29.-B



Fig.8.29.-C



8.30. シート幅の調整

シート幅の調整にはオプション品の「ヒップサポート」が必要です。

ヒップサポート装備におけるシート幅調整範囲：180～320mm

「ヒップサポート」が装備されていない場合のシート幅は 400mm となります。

「ヒップサポート」が取り付けられている場合、シート幅の調整を行うには以下の順序で行ってください。（「8.46 三方向調整式ヒップサポートの調整」もご参照ください）

a) シートの底側にある 4 つのノブネジを緩めてください(Fig.8.30.-A)

b) ヒップサポートを必要な幅にスライドさせてください(Fig.8.30.-B)

c) 調整が終わったらノブネジしっかりと締めてください(Fig.8.30.-C)

Fig.8.30.-A



Fig.8.30.-B



Fig.8.30.-C



8.31. ティルト角度調整機構「クレードル」について

ティルト角度調整機構は以下の要素で構成されています。

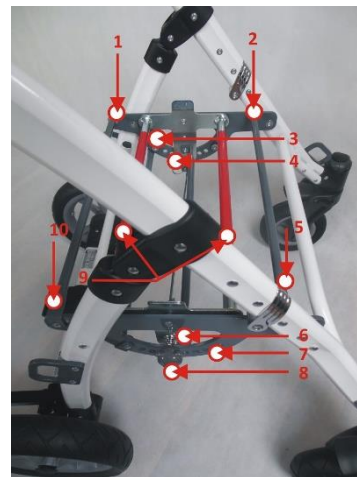
この機構を「クレードル」と呼びます。

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| a) クレードルハンドル | (Fig.8.31, no. 8) |
| b) 右側ロックピン | (Fig.8.31, no. 6) |
| c) 右側スライドプレート | (Fig.8.31, no. 7) |
| d) 左側ロックピン | (Fig.8.31, no. 4) |
| e) 左側スライドプレート | (Fig.8.31, no. 3) |
| f) シート部分取付用フレーム | (Fig.8.31, no. 9) |
| g) 補強フレーム | (Fig.8.31, no. 1, 2, 5, 10) |

ティルト角度は 0° , 10° , 20° , 30° の 4 段階で調整ができます。

進行方向／対面式、どちらでも使用頂いてもティルト角度の調整ができます。

Fig.8.31.



8.32. ティルト角度の調整

8.32.1 ティルト角度の調整は以下の順序で行ってください。

- フットブレーキをかけてください。(Fig.8.32.-A)
- クレードルハンドルを手前に引いてください。(Fig.8.32.-B)
- 背シートを支えながら角度をゆっくりと変更し、スライドプレート穴にロックピンを固定してください。(Fig.8.32.-C)
- クレードルハンドルがしっかりはまっていることを確認してください。(Fig.8.32.-D)
- もう一度クレードルの左右スライドプレート穴にロックピンが固定されていることを確認してください。(Fig.8.32.-E ,Fig.8.32.-F)

8.32.2 シート部分を外した状態でのティルト角度の調整

前回使用時にクレードルが 0° 以外のティルト角度でシート部分を取り外した場合、再度シート部分を取り付ける際にはいったんティルト角度を 0° に戻してから行ってください。

シート部分が外れた状態でのティルト角度の調整は以下の順序で行います。

- フットブレーキをかけてください。
- クレードルハンドルを手前に引いてください。
- シート部分取付用フレーム（赤色のパイプ）を握りながらクレードルが平行になるように角度を変更してください。スライドプレート穴にロックピンを固定してください。
- クレードルハンドルがしっかりはまっていることを確認してください。
- もう一度クレードルの左右スライドプレート穴にロックピンが固定されていることを確認してください。

Fig.8.32.A



Fig.8.32.B



Fig.8.32.C



Fig.8.32.-D



Fig.8.32.-E

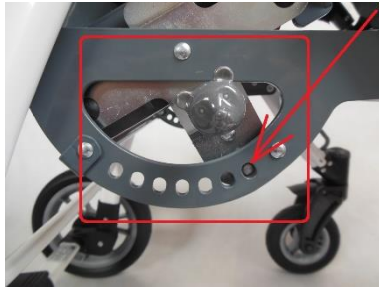
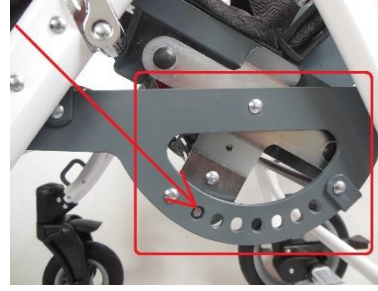


Fig.8.32.-F



8.33. 背シートの調整機構について

Grizzly の背シートは後面の調節機構によりリクライニング角度調整や成長対応のための高さ調整が可能です。座シートと背シートはそれぞれ良質なカバーで覆われています。

8.34. 背シートの高さ調整

①背シートの後面にある 2 つのノブネジを緩めてください。ノブネジの緩め過ぎに注意してください(Fig.8.34.-A)。「体幹パッド」をお使いの場合はヒップサポートの根元のノブネジも緩めてください。

②希望の高さになるように上部背シートプレートをスライドさせてください(Fig.8.34.-B)。

③ノブネジをしっかりと締めてください(Fig.8.34.-C)。

背シート高さ：570mm～700mm

Fig.8.34.-A



Fig.8.34.-B

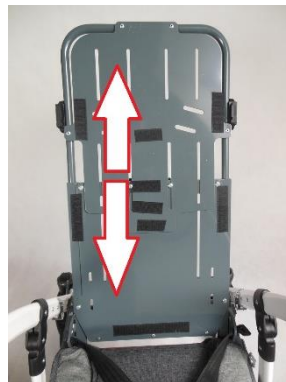


Fig.8.34.-C



8.35. リクライニング角度の調整機構について

リクライニング角度の調整機構は以下の要素で構成されています。

a) ハンドル (Fig.8.35, no. 3)

b) ワイヤー連結のロックピン (see Fig.8.35, no. 1 and 4)

d) 左右スライドプレート (see Fig.8.35, no. 2 and 5)

リクライニング角度は 90°, 105°, 121.5°, 137°, 151.5°, 166.5° の 6 段階で調整ができます。進行方向／対面式、どちらでご使用頂いてもリクライニング角度の調整ができます。

Fig.8.35.



8.36. リクライニング角度の調整

ティルト角度の調整は以下の順序で行ってください

- a) フットブレーキをかけてください。(Fig.8.36.-A)
- b) 背シートを少し前方に押してください。背シートの自重がかかっている状態だと c)の工程が行えません。(Fig.8.36.-B)
- c) ハンドルを上向きに引っ張ってください。(Fig.8.36.-C)
- d) ハンドルを引ながら背シートをリクライニングさせてご希望の角度に合わせてください。(Fig.8.36.-D)
- e) ハンドルを離してください。自動的にロックピンが戻ります。(Fig.8.36.-E)
- f) 調整後は必ずロックピンが左右スライドプレートに固定されていることを確認してください。(Fig.8.36.-F and Fig.8.36.-G).

リクライニング角度の調整を行った際は必ずシートベルトの調整も併せて行ってください。

Fig.8.36.-A



Fig.8.36.B



Fig.8.36.C



Fig.8.36.D



Fig.8.36.-E



Fig.8.36.-F



Fig.8.36.-G



8.37. 5 点式シートベルト

Grizzly には 5 点式シートベルトが標準装備されています。

お子様の安全と姿勢保持のためにご使用ください。

シートベルトのバックル(Fig.8.37.-A, no. 5)でロック／解除ができます。

ベルト長さ調整のためのスライド機構は左右ベルトと股ベルトにあります。(Fig.8.37.-A, no. 3, 4, 6).

Fig.8.37.-A



5 点式シートベルトの脱着方法

- ① 肩ベルト(see Fig.8.37.-A, no. 1, 2)をお子様の肩にかけます。
- ② 左右のベルトバックル先端を重ね合わせます。(see Fig.8.37.-B)
- ③ 股ベルトのバックル受けに挿し込みます。(Fig.8.37.-C).
- ④ シートベルトを外すときはバックル受け部分のボタンを押します。

Fig.8.37.-B



Fig.8.37.-



8.38. 5 点式シートベルトの調整方法

シートベルトの長さを調整するためにはスライド機構の部分で上下に動かしそれに応じて肩パッドを動かしてください(Fig.8.38.-A)。

肩ベルトの取り付け位置を変更するためには背シートの肩ベルト通し穴を変更してください(Fig.8.38.-B)。

リクライニング角度の調整を行った際は必ずシートベルトの調整も併せて行ってください。

Fig.8.38.-A



Fig.8.38.-B



8.39. フットレストの機構について

フットレスト高さ：230cm～400cm。8 段階での調整が可能です。

フットレスト両端にボルトで固定されています。

また、 $\pm 15^\circ$ の範囲でフットレストの上下角度を調整できます。

2つのノブネジを備えており、お子様の足首の状態に合わせた調整が可能です。フットレストには足首用ストラップが装備できます。

Fig.8.39.



8.40. フットレストの高さ調整

フットレストの高さを調整するためにはプラスドライバーとスパナが必要です。プラスドライバーで左右のボルトを外してください。希望する高さに合わせたらボルトを固定してください。(Fig.8.40.-A). お子様の足が適切にフットレストに置かれている状態であつ太ももが座シートに平行で安定して座位が取れているように高さを設定してください。

運搬時や保管、お子様の乗せ下ろしの際にフットレストを折り畳んでスペースを確保することができます。(Fig.8.40.-B).

Fig.8.40.A



Fig.8.40.-B



8.41. フットレストの角度調整

フットレストの両側にある 2 つのノブネジを少し回して緩め、プレートの傾斜角を調整します。調整が終わったらノブネジをしっかりと締めてください(Fig.8.41.)。

Fig.8.41.



8.42. レッグレストの角度調整機構について

角度調整機構は座シートの前部にあります。

左右それぞれにボタンが付いたプラスチック製の角度調整機構です(Fig.8.42)。

10 段階での調整ができます。

お子様の下肢の状態に合わせた調整が可能です。

Fig.8.42.



8.43. レッグレストの角度調整

左右の角度調整機構ボタンを押しながら希望の角度まで手のひらで持ち上げてください。ボタンを離して「カチッ」というクリック音が確認できるまで微調整して固定します。(Fig.8.43.)。

Fig.8.43.



8.44. 三方向調整式「ヘッドレスト」の調整

Grizzly の背シート上部にはオプション品のヘッドレストの取り付けが可能です。

以下の通り三方向の調整ができます。ヘッドレストパッドはお子様の頭部の状態に応じて対称的にも左右別々にも調整ができます。

a) 左右にスライド (Fig.8.44.-A)

b) 上下にスライド (Fig.8.44.-B)

c) 前後にスライド (Fig.8.44.-C)

ヘッドレストの脱着と調整は同じくノブネジを使用して行います。

ヘッドレストを調整する前に前面と背面のシート布を外してから行ってください。

ヘッドレストパッドは背シートに 2 つずつのノブネジで固定されています(Fig.8.44.-D)。また、前後スライドのノブネジはヘッドレストパッドの外側に 2 つずつあります(Fig.8.44.-E)。

左右のヘッドレストを希望の位置にスライドさせてノブネジで固定してください。

Fig.8.44.A



Fig.8.44.B



Fig.8.44.C



Fig.8.44.D



Fig.8.44.-E



8.45. 三方向調整式「体幹パッド」の調整

Grizzly の背シートにはオプション品の体幹パッドの取り付けが可能です。

以下の通り三方向の調整ができます。体幹パッドはお子様の体幹の状態に応じて対称的にも左右別々にも調整ができます。

a) 左右にスライド (Fig.8.45.-A)

b) 上下にスライド (Fig.8.45.-B)

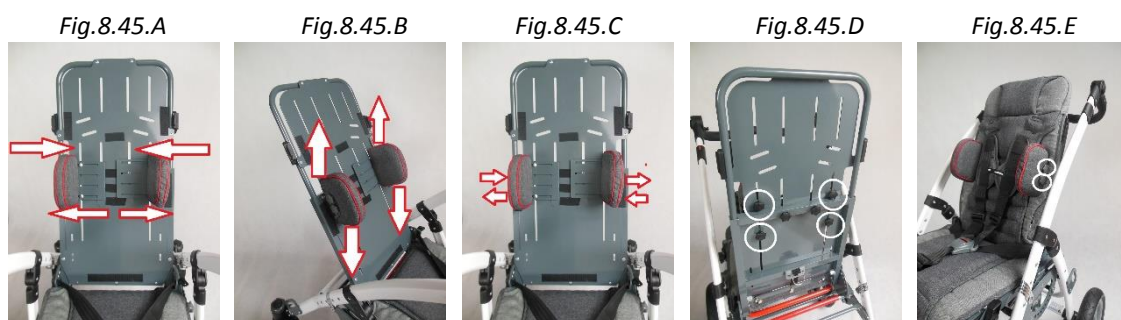
c) 前後にスライド (Fig.8.45.-C)

体幹パッドの脱着と調整は同じくノブネジを使用して行います。

体幹パッドを調整する前に前面と背面のシート布を外してから行ってください。

体幹パッドは背シートに 2 つずつのノブネジで固定されています(Fig.8.45.-D)。また、前後スライドのノブネジは体幹パッドの外側に 2 つずつあります(Fig.8.45.-E)。

左右の体幹パッドを希望の位置にスライドさせてノブネジで固定してください。



8.46. 三方向調整式「ヒップサポート」の調整

Grizzly の座シートにはオプション品のヒップサポートの取り付けが可能です。

以下の通り三方向の調整ができます。ヒップサポートはお子様の股関節や下肢の状態に応じて対称的にも左右別々にも調整ができます。

a) 左右にスライド (Fig.8.46.-A)

b) 上下にスライド (Fig.8.46.-B)

c) 前後にスライド (Fig.8.46.-C)

ヒップサポートの脱着と調整は同じくノブネジを使用して行います。

ヒップサポートを調整する前に前面と座面のシート布を外してから行ってください。

ヒップサポートは座シートに 2 つずつのノブネジで固定されています(Fig.8.46.-D)。また、前後スライドのノブネジはヒップサポートの外側に 2 つずつあります(Fig.8.46.-E)。

左右のヒップサポートを希望の位置にスライドさせてノブネジで固定してください。



8.47. 体幹サイドガード

背シート下部の両端に取り付けできるサイドガードです。お子様の体の横倒れを防ぎ、衣類を汚れから守る役目があります (Fig.8.47.-A)。

それぞれ 2 つずつのノブネジで取り付けられています。

(Fig.8.47.-B)

「体幹パッド」との併用はできません。また、「体幹パッド」とは違い、この体幹サイドガードは調整幅がほとんどありません。

Fig.8.47.-A



Fig.8.47.-B



8.48. 股関節外転保持ベルト 【オプション品】

股関節を外転位に保持をして座位の安定性を向上させます。お子様が座面から滑り落ちるのを防ぐためにもご使用頂けます。

股関節外転保持ベルトの根元は 4 点で固定されています。

ハーネスの後ろ端を座面底のノブネジに固定します (Fig.8.48.-B)。

ハーネスの前端をリクライニングプレート前方開口穴に固定します (Fig. 8.48.-C)。さらに (Fig.8.48.-D～Fig.8.48.-I) を参照し 8 コキとバックルを通します。

Fig.8.48.-A



Fig.8.48.B



Fig.8.48.C



Fig.8.48.D



Fig.8.48.-E

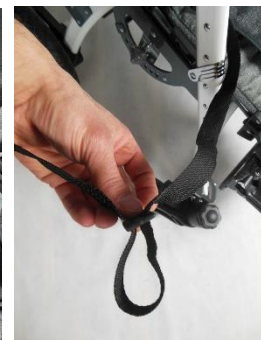


Fig.8.48.-F



Fig.8.48.-G



Fig.8.48.-H



Fig.8.48.-I



8.49. セーフティグリップ【オプション品】

Grizzly にはセーフティグリップを取り付けることができます(Fig.8.49.-A)。

セーフティグリップにはテーブルと同じ固定具がついています。両方を同時に使用することはできません。セーフティグリップまたはテーブルを固定するにはシート外側の 2 つの固定機構へ垂直に差し込んでください。

セーフティグリップを取り付けるには、2 つのボタンを同時に押しながら固定機構に挿し込み、「カチッ」というクリック音が確認できるまで押し込んでください

(Fig.8.49.-B)。

セーフティグリップを取り外すには 2 つのボタンを押しながら同時に垂直に引き抜いてください。

Fig.8.49.-A



Fig.8.49.-B



8.50. 日除け (キャノピー) 【オプション品】

Grizzly には、日射や雨からお子様を保護するための窓が付いた角度調節が可能な日除けを取り付けることができます。日除けの要素は次のとおりです。

a)後部アーチフレーム (Fig.8.50.-A, no. 7)

b)前部アーチフレーム (Fig.8.50.-A, no. 8)

c)角度調節機構 (Fig.8.50.-A, no. 3/5)

d)日除けを固定する赤いボタン付きの 2 つの留め金 (Fig.8.50.-A, no. 4, 6)

e)日除け (Fig.8.50.-A, no. 2)

f)ウインドウ (Fig.8.50.-A, no. 1)

g)後方日除けカバーポケット (Fig.8.50.-A, no. 9)

Fig.8.50.-A



日除けは背シート上部の外側にある 2 つの固定機構に挿し込んで固定できます。背シートを垂直にした状態 (8.36「背シートの角度調整」を参照) に戻し、キャノピーの 2 つの留め金を背もたれの固定具に同時にスライドさせます(Fig.8.50.-B)。日除けを取り外すには、2 つの赤いボタンを押しながら固定機構から引き抜きます。

日除けの被せ具合を調整するには、前部アーチフレームと後部アーチフレームをつかみ、2 つのアーチを離したり近づけたりして設定します(Fig.8.50.-C)。

さらに天蓋を傾けたり隠したりすることもできます(Fig.8.50.-D)。

上面にウインドウがありお子様の状態を確認することができます。(Fig.8.50.-A, no.1)。

Fig.8.50.-B



Fig.8.50.-C



Fig.8.50.-D



8.51. テーブル【オプション品】

最大耐荷重3kgのテーブル(Fig. 8.51.-A)を装備することができます。ただし、テーブルと安全グリップバーを併用することはできません。

テーブルの固定機構は座シートの外側にあります(Fig.8.51.-B)。取り付けるにはテーブルのステーにある2つのボタンを押しながら「カチッ」というクリック音が確認できるまで垂直に差し込みます。

テーブルを取り外すには、テーブルステーの2つのボタンを押しながら垂直に引き抜きます。

Fig.8.51.A



Fig.8.51.-B



8.52. トラベルバッグ【オプション品】

Fig.8.52.

トラベルバッグは介助ハンドルの内側の機構に引っ掛けて取り付けることができます。(Fig.8.52).

バッグの耐荷重：2kg



8.53. ショッピングバスケット【オプション品】

ショッピングバスケット(Fig.8.53)には日常使用する小物などを入れることができます。

前方・後方フレームにそれぞれ固定し取り付けます。

ショッピングバスケットの耐荷重：3kg.

Fig.8.53.



8.54. ポメル

下肢の内転防止ができるポメル(Fig.8.54.-A)を装着することができます。ポメルは座シートプレートに穴にポメルから出ているピンを差し込み、その片側をノブねじで固定することができます。(Fig.8.54.-B).

ウェッジは、シートプレートの穴に2つのウェッジ固定具を挿入し、それらの1つをノブでねじ込むことにより、シート前面に取り付けることができます。

Fig.8.54.A

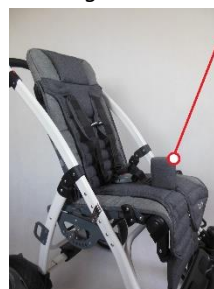


Fig.8.54.-B



8.55. レインカバー【オプション品：「日除け」との併用が必要】 Fig.8.55.-A

お子様を雨から守ることができます。レインカバーを取り付ける場合は、「日除け」との併用が必要です(Fig. 8.55.-A)。レインカバーの先端はフットレストに引っ掛けて取り付けます(Fig. 8.55.-B)。

レインカバーは日除けの後方カバーポケットに収納できます。

Fig.8.55.-A



Fig.8.55.-B



8.56. 介助者用防寒グローブ 【オプション品】

介助者を寒さから守るために介助ハンドルに取り付けることができる防寒グローブです。

最初にベース生地をグリップに巻き付けてベルクロで固定します(Fig. 8.56.-A)。

次にその上に手袋をかぶせ、スナップボタンで連結します(Fig. 8.56.-B)。

Fig.8.56.-A



Fig.8.56.-B



8.57. フットマフ 【オプション品：「セーフティグリップ」との併用をお薦めします】

お子様を寒さから守り快適性を維持するためのフットマフを装着することができます(Fig. 8.57.-B)。

フットマフを装着するためには、まずお子様の足の上にフットマフを置き、フットマフの穴に「セーフティグリップ」を通します(Fig. 8.57.-A)。その後「セーフティグリップ」は固定機構に挿し込んでください。

Fig.8.57.-A



Fig.8.57.-B



8.58. モスキートネット 【オプション品：「日除け」との併用が必要です】

お子様を蚊などから守るモスキートネットの装備が可能です。モスキートネットを取り付ける場合は、「日除け」との併用が必要です(Fig. 8.58.-A)。レインカバーの先端はフットレストに引っ掛けて取り付けます(Fig. 8.58.-B)。

モスキートネットは日除けの後方ポケットに収納できます。

Fig.8.58.-A



Fig.8.58.-B



8.59. テディベア装飾セット 【オプション品：一部オプション品との併用となります】

装飾品のセットです。:

各箇所にに取り付けてご使用ください。

- a) 介助者用防寒グローブ
- b) 日除けに挿し込むグリズリーイヤー
- c) セーフティグリップ
- d) ヘッドレスト
- e) 体幹パッド
- f) ヒップサポート

Fig.8.59.



9. スペック

製造元	MyWam Kupiec, Bartold, Angres spółka jawna (general partnership)
製造元住所	ul. Szczecińska 10, 41-516 Chorzów, Poland
種目	Special rehab buggy for children
モデル	Grizzly



		MIN	MAX	
No.	詳細			
1	背シート	背シート高	570 mm	700 mm
2		ヘッドレスト高	350 mm	700 mm
3		体幹サイドガード幅	180 mm	340 mm
4		体幹サイドガード高	110 mm	490 mm
5		ヒップサポート幅	170 mm	350 mm
6		最大背シート幅（体幹サイドガード非装着時）	340 mm	
7	座シート・フットレスト	対面式	可能	
8		ヒップサポート幅	170 mm	350 mm
9		最大座シート幅（ヒップサポート非装着時）	400 mm	
10		フットプレート長	8段階: 230 mm - 405 mm	
11				
12			フットレスト幅 230 mm	
13	角度	ティルト角度	4段階: 0° / 10° / 20° / 30°	
14		リクライニング角度	6段階: 90° / 105° / 121,5° / 137° / 151,5° / 166,5°	
15		レッグレスト角度	10段階	
16	耐荷重	最大耐荷重	43 kg	
17		アンダーバスケット	3 kg	
18		トラベルバッグ	2 kg	
19		最大耐荷重（使用者体重+オプション品等）	45 kg	
20	フレーム・座シート部分	総重量(バギーフレーム+シート部分：ヘッドレスト・サイドガード・オプション品非装着時)	17 kg	
21		総重量(バギーフレーム+シート部分+全オプション品)	24 kg	
22		バギーフレーム重量	10,5 kg	
23		脱着可能パーツの重量（前輪/後輪/シート部分）	0,8 kg / 1 kg / 6 kg	
24		介助ハンドル高さ（床面からの高さ）	880 mm	1230 mm
25		前座高	520 mm	650 mm
26		後輪径	285 mm	
27		前輪径	185 mm	

28		最大全長（レッグレスト伸展、最大リクライニング、介助ハンドル最大）	1330 mm	
29		最小全長（レッグレスト下垂、リクライニング垂直、介助ハンドル垂直）	760 mm	
30		全高（日除け非装着時）	1230 mm	1430 mm
31		全幅	655 mm	
32		折りたたみ時全長（オプション品非装着時） シート部分 (S) / バギーフレーム (R)	S: 875 mm	R: 835 mm
33		折りたたみ時全幅（オプション品非装着時） シート部分 (S) / バギーフレーム (R)	S: 460 mm	R: 655 mm
34		折りたたみ時全高（オプション品非装着時） シート部分 (S) / バギーフレーム (R)	S: 190 mm	R: 350 mm
35	OTHER TECHNICAL DATA	前方静的安定性許容傾斜（シート部分取付：進行方向／対面式）	16° / 11°	
36		後方静的安定性許容傾斜（シート部分取付：進行方向／対面式）	10° / 22°	
37		側方静的安定性許容傾斜（シート部分取付：進行方向／対面式）	16° / 16°	
38		保管および使用温度	+10° C ～ +35° C	
39		湿度	30% - 70%	
製造元は、スペックパラメータの変更を行う権利を留保します。				
測定値許容誤差：+/- 15mm, +/- 1,5kg, +/- 1°.				

9.2. 製品本体の構成要素：粉体塗装鋼とアルミニウム、100%ポリエステルとプラスチック (PP, PCV, ABS, PA, PE, PU).